

# サーサナ

第59号 仏暦2566（西暦2023）年3月9日

---

## 諸法無我

三法印の第二は諸法無我です（厳密には諸法非我）。

パーリ語ではサッベ・ダンマ・アナッタ。

サッベは「すべての」（諸）。ダンマは「もの・こと」（法）。アナッタはア（非）+アッタ（我）の合成語。

ここで、第一の諸行無常と比べてみますと、「諸行」「諸法」と、異なる漢字が使われていることが分かります。「行」とは前回説明しましたように、「つくられたもの」「条件づけられたもの」という意味です。これに対して、「法」は「つくられたもの」も「つくられたのではないもの」も共に含みます。たとえば、覚りとか涅槃、あるいは自然科学の法則、これらはつくられたものではありませんが、法のひとつです。家、人間、社会など、これらはつくられたものですが、これも法です。このように、法は行よりも意味が広いのですが、そのすべてについて、これは「我」ではない、ということ。

何のことだかわからない、と思われたでしょうか。わからない理由は、漢字の「我」のせいです。ここでは「我」は自分という意味ではありません。そうではなくて、私（あるいはあなた）という人間の奥底にあつて、それ自身変化することなく、精神や肉体を動かしている主人のようなもの、という意味です。人間の肉体が減んでも、相変わらず存在し続ける靈魂のようなもの、といったほうがよいでしょう。すべてのもの・ことは、そのような不変不死の靈魂のようなものではありません、ということなのです。

これは何を意味しているのでしょうか。

「死んでも命がありますように！」は無理な願いだ、ということなのです。

死ぬのはいや、でもいつかは死ななくてはいけない、それは分かる、しかし、せめて死後の世界があつてほしい、そこで永遠の命が手に入るはず... そ

うでなければ別の生き物に生まれ変わるのもいいから、とにかく命が続いてほしい。

これは古今東西を問わず人々が願ってきたところudur。死後の世界は「あの世」だったり「常世」だったり「神の国」であつたり、その表現はいろいろです。極楽浄土は本来は覚りの世界であつて死後の世界ではないのですが、それをも死後の世界にしてしまったのが浄土教の実態です。

このように願うのは、ひとえに私たちの執着心からです。見たこともない「靈魂」を、あたかもあるかのように想像し、それによって多少でも安心感が得られると思つてきたのです。しかし靈魂が存在するという証拠はありません。渡邊了生氏（本願寺派学僧）は自著で、次のように皮肉を交えておっしゃっています。

「もし仮に来世の『出会える世界』が存在するならば、私たちは、どんな姿で復活し愛する人々と再会するのでしょうか？若き日の姿？臨終時の姿？白骨の姿！？靈魂での再会！？」（『親鸞の弥陀化身論』興正寺安居講述本）

死後の世界だけでなく、現在の生活においても、私たちは自我に執着して、思い通りになることを願っています。

釈尊は、そのような執着心にとらわれている限り、真実に根ざした生き方はできないことを見抜かれました。そこで、「私たち人間のうちには永遠不滅の靈的実体は見出すことはできない」と教えられたのです。（そのような靈的実体が存在しない、といっているわけではありません。死後の世界については、あるとかないとか論じるのはムダなことだとしています。）

「諸法無我」といっても、なにも自我が存在しない、といっているのではありません。釈尊は私の存在を否定しているのではなく、我もまた縁起として、他者や他物との無数の関係によってしか存在し得ないのだと、したがつて、我が単独にそれ自体としてあるのではない、と教えられているのです。

最後に。「無我」という考え方は滅私奉公ということではありません。我も人も共にたいせつにし、たいせつにされる世であつてほしいという精神です。我が思いどおりに生きることが幸せではないと知るべきです。



## 永代経懇志お礼

下記の方から永代経懇志を頂戴いたしました。ここにあらためてお礼申し上げますと共に、今後とも法義相續されますことを念願いたします。

12月25日 成田様[天白区] 30万円

## 法要行事について

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。念珠は必ずご持参ください。また肩衣の着用を推奨します。



### 三月 涅槃会（ねはんえ）

兼 年間物故者追弔会

兼 春彼岸会

涅槃会とは、釈尊の入滅（入涅槃＝完全なる安らぎである死を迎えられたこと）を記念する法要です。本法要にあわせて、2022年の間に亡くなられた当寺御門徒を追弔いたします。また兼ねて春彼岸法要ともなります。

- ❖ 日 時 3月21日（火）午後2時～4時【午後1時半より受付】
- ❖ 内 容 年間物故者追弔のことば  
勤行（和文仏教聖典読誦、正信偈同朋奉讃）  
住職法話
- ❖ 持ち物 『和文仏教聖典』、『正信偈同朋奉讃』（または『真宗大谷派勤行集』）

### 四月 花祭りコンサート



昨年同様、地域公開行事としてコンサートを開催します。今回はソプラノ歌手の久野薫さんをお迎えし、日本の名歌を歌っていただきます。ピアノソロ曲の演奏もあります。お友達などにもお誘いしていただきたく、チラシを同封しました。



花御堂の誕生仏に甘茶をかけて釈尊生誕をお祝いしましょう。

（甘茶の用意あり、ご自由にお召し上がりください）

- ❖ 日 時 4月9日（日）午後2時～3時
- ❖ 入場料 1000円（中学生以下無料）
- ❖ 歌 手 久野薫（ソプラノ）
- ❖ 演 奏 小島千加子（ピアノ）
- ❖ 曲 目 「荒城の月」「宵待草」「からたちの花」「ゴンドラの歌」「蘇州夜曲」「さくら横ちょう」「朧月夜」「花」「ふるさと」など

## 五月 永代経

子々孫々、永代にわたって、浄土三部経が読誦され、仏法が伝えられることを願いとする法要。御懇志を頂いたお方の法名を記した掛け軸をお掛けします。（「永代経」という名前のお経があるわけではありません。）

なお、永代経のご懇志については随時受け付けています。

- ❖日時 5月25日（木）  
午前法座は午前10時から  
午後法座は午後1時から（午後2時半頃まで）
- ❖内容 勤行（無量寿経・阿弥陀経訓読、正信偈）、法話（石原和久師）
- ❖持ち物 勤行本『正信偈同朋奉讃』『真宗法要聖典』
- ❖お斎（昼食）があります（持ち帰り可）

### 教心寺ライブラリーから（6）

#### 岡野守也『仏教とアドラー心理学：自我から覚りへ』

（佼成出版社、2010年）

心理学の三大巨匠といえば、フロイト、ユング、アドラーの三人です。従来、ユング心理学と仏教心理学との関係については、河合隼雄氏など多くの識者が論じてきましたが、アドラー心理学との関係については本書が嚆矢ではないかと思えます。

著者は心理学者で、かつ神学を修めた牧師です。仏教の専門家ではないにも関わらず、というより、むしろ非専門家であるからこそ枝葉にこだわることなく、仏教を概括的にとらえ、掘り下げて解説しており、むしろ専門家（仏教学者や僧侶）にこそ読まれてしかるべきかもしれません。同時に、アドラー心理学を知らない、あるいは仏教を知らない人にも、分かりやすい内容となっています。

仏教の根本の目的は苦の解決ですが、複雑化する現代社会のなかで心を病む人が多いという現状に対して、必ずしも対応ができていないといえます。そこでアドラー心理学の考え方を導入することによって、個人および人類全体の幸福のために資することができるのではないかと、というのが著者の願いです。

---

**真宗大谷派 教心寺**（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弍（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 F A X：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>

---